

展示室 1 光を描く

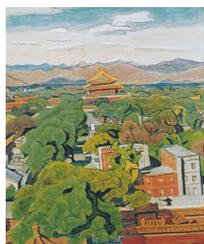


サー・フランク・ブランギン
《ブリュージュのヤン・ファン・エイク広場の恋人たち》

空気や光などを描くことは難しいものです。光といっても、たとえば陽光でも朝と昼と夜とでは違います。天候によっても大きく変わります。今回は油彩、水彩に加えて、ターナー、コンスタブル、パーマーといったイギリスを代表する作家たちの銅版画による光の表現もご覧いただけます。日本人彫師・漆原木虫（1889～1953）と組んだブランギンの木版画と見比べていただくと、それぞれの技法による光の表現の違いも見えてきます。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
サー・フランク・ブランギン	ブリュージュのフレーネ・レイ（運河）		木版・紙
サー・フランク・ブランギン	ブリュージュのヤン・ファン・エイク広場の恋人たち		木版・紙
サー・フランク・ブランギン	橋のある風景		木版・紙
サー・フランク・ブランギン	ブリュージュのポテリエリ		木版・紙
ジョン・マーティン	光の創造	1825	メゾチント・紙
サミュエル・パーマー	眠る羊飼い：早朝	1857	エッチング・紙
サミュエル・パーマー	早朝に働く農夫（山々にひるがる朝）	1861 以前に着手	エッチング・紙
トマス・ガーティン	エクセター大聖堂	1798 頃	水彩・紙
ジョン・コンスタブル	ウェイマス湾	1830	メゾチント・紙
ジョン・コンスタブル	ストーンヘンジ	1843-4 頃	メゾチント・紙
ジョン・コンスタブル	水浴びをする人たち、ハムステッド	1845 以前	メゾチント・紙
ジョン・コンスタブル	ブライトン付近の穀物畑	1843-4 頃	メゾチント・紙
ジョン・コンスタブル	テダムの谷	1802	油彩・紙、キャンパス
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	サン・ゴタル峠の下り道	1848	水彩・紙
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	ベン・アーサー	1819	エッチング、メゾチント・紙
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	グローリー湾、デヴォンシャー	1824	エッチング、ラインエングレーヴィング・紙
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	海と空の習作	1825 頃	メゾチント・紙
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	カレー沖の釣船（ドーバー海峡）	1830	メゾチント・紙
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	バトル修道院	1816	エッチング、ラインエングレーヴィング・紙
サー・アルフレッド・イースト	九月の陽光		油彩・キャンパス
サー・トマス・ローレンス	ラビー・ウィリアムズ牧師	1790 代初頭	油彩・キャンパス
ウィリアム・ホーガース	サミュエル・マーティンの肖像	1758～60 頃	油彩・キャンパス
トマス・ゲインズボロ	オース夫人の肖像	1767	油彩・キャンパス
サー・ジョシュア・レイノルズ	エグリントン伯爵夫人、ジェーンの肖像	1777	油彩・キャンパス
サー・エドワード・コーリー・パーソンズ＝ジョーンズ	フローラ	1868～84	油彩・キャンパス
アルバート・ジョゼフ・ムーア	黄色いマーガレット	1881	油彩・キャンパス

展示室 2 日本の印象派とフォーヴィスム



安井曾太郎《初秋の北京》

印象派は色彩分割など新しい手法から自然を描く美術運動です。その後続くフォーヴィスムは日本語で「野獣派」と訳されるように、荒々しいタッチで強い色を用いて対象を表現するものでした。

明治中期以降、日本人は留学先のヨーロッパや印刷物でそういった同時代の西洋絵画を知るようになります。歴史も社会もヨーロッパと異なる日本の西洋画家たちにとって、問題なのは西洋の影響のもとで日本人は何をどのように描くべきか、ということでした。それは結果的に、西洋画の日本化を目指すものでもありました。

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
黒田清輝	東久世伯肖像エスキース	1894 (明治 27)	油彩・キャンバス	
和田英作	上総風景	1897 (明治 30)	油彩・キャンバス	
白瀧幾之助	編物をする少女	1895 (明治 28)	油彩・キャンバス	
山本森之助	冬の磐梯山	1918 (大正 7)	油彩・キャンバス	
中沢弘光	風景 (海)	1921 (大正 10)	油彩・キャンバス	
中沢弘光	灯 (加茂川夕涼)	1914 (大正 3)	油彩・キャンバス	
中沢弘光	舞妓ノ一	1944 (昭和 19)	油彩・キャンバス	
山下新太郎	苔寺	1922 (大正 11) 頃	油彩・キャンバス	
正宗得三郎	東京の郊外		油彩・キャンバス	
曾宮一念	静物	1918 (大正 7)	油彩・キャンバス	武田光司コレクション寄贈
梅原龍三郎	静物		油彩・キャンバス	
岸田劉生	銀座数寄屋橋	1909 (明治 42) 頃	油彩・板	
中山 巍	花鳥B	1934 (昭和 9)	油彩・キャンバス	
石川寅治	房総風景	1923-24 (大正 12-13) 頃	油彩・キャンバス	
斎藤与里	海浜秋景	1937 (昭和 12) 頃	油彩・キャンバス	
満谷国四郎	冬	1922 (大正 11)	油彩・キャンバス	
片多徳郎	残雪の庭	1925 (大正 14)	油彩・キャンバス	
中山 巍	赤ジレ座婦	1927 (昭和 2)	油彩・キャンバス	
中村 彝	朝顔	1923 (大正 12)	油彩・キャンバス	
安井曾太郎	初秋の北京	1944 (昭和 19)	油彩・キャンバス	
藤島武二	「耕到天」習作	1936 (昭和 11)	油彩・キャンバス	
中川紀元	赤い下着	1920 (大正 9)	油彩・キャンバス	(株) 興新産業寄贈

展示室 3 郡山ゆかりの作家たち



安藤重春《雨の華》

当館の収集の柱のひとつとなっている、郡山とその周辺にゆかりのある作家たちを特集します。ふるさとの情景を描いた作家たち、県内外で活動を続け、郷土の美術の発展に尽力した作家たち、また、海外に渡って活躍した作家たち。彼らの多彩な作品の数々をお楽しみください。

福島県という風土の中で育まれた彼らの作品からは、豊かな情景、人や生活を見つめる作者のまなざしが感じられるでしょう。表現の方法はそれぞれですが、彼らが持つふるさとのイメージが、創造の根源ともなっているのかもしれない。

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
土橋醇	小さな村	1955 (昭和 30)	油彩・キャンバス	
吉井忠	敗れたる風景	1946 (昭和 21)	油彩・キャンバス	吉井忠氏寄贈
佐藤昭一	夏季休業 (ガラス工場にて)	1953 (昭和 28)	油彩・紙	
青津清喜	窓際	1950 (昭和 25)	油彩・キャンバス	
水田荘介	横たわる裸婦	1953 (昭和 28)	油彩・キャンバス	
安藤重春	雨の華	1979 (昭和 54)	岩絵具・紙	
安藤重春	レッスン	1977 (昭和 52)	岩絵具・紙	安藤重春氏寄贈
鎌田正蔵	白日夢	1938 (昭和 13)	油彩・キャンバス	鎌田正蔵氏寄贈
鎌田正蔵	製塩工場	1947 (昭和 22)	油彩・キャンバス	鎌田正蔵氏寄贈
鎌田正蔵	製塩工場・小名浜	1947 (昭和 22)	油彩・キャンバス	鎌田正蔵氏寄贈
佐藤昭一	シリーズ人間 - Sさんのトマト -	1979 (昭和 54) 頃		佐藤昭一氏寄贈
佐藤昭一	シリーズ透過 - 再生 -	1995 (平成 7)	アクリル、コンテ、和紙・板	佐藤昭一氏寄贈
芳賀忠行	虚構の風景 - 城	1974 (昭和 49)	油彩・キャンバス	
黒沢吉蔵	河の附近の風景	1956 (昭和 31)	岩絵具、箔・紙	黒沢吉蔵氏寄贈
佐藤潤四郎	トリオ・ザ・ガラスの神様		ドローイング	佐藤久枝氏寄贈
岩谷徹	夏の思い出	1976 (昭和 51)	メゾチント・紙	
岩谷徹	月の森	1982 (昭和 57)	メゾチント・紙	
安部直人	25の球態	1994 (平成 6)	エッチング、メゾチント・紙	
安部直人	ほおずきIV	2000 (平成 12)	エッチング、メゾチント・紙	

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
三坂耿一郎	まとう	1967 (昭和 42)	ブロンズ	
佐藤静司	春の音	1979 (昭和 54)	木	佐藤静司氏寄贈
折笠兆春	永遠の空	1996 (平成 7)	乾漆	折笠兆春氏寄贈
佐藤潤四郎	オブジェ・羊車		金工 (鍛鉄)	大方竜子氏寄贈

展示室 4 コットマンの建築遺構集



ジョン・セル・コットマン
《主教官邸の門, ノリッジ》

ジョン・セル・コットマンはノーフォークのノリッジに生まれ、ロンドンでターナーやガーティンも通ったトマス・モンロー博士のもとで絵を学びます。帰郷後は、設立されたばかりのノリッジ美術家協会を中心となって活躍しました。

生涯大掛かりなスケッチ旅行を何度も行い、1817年、18年、20年にはフランスのノルマンディー地方を訪れ、1810年代後半から1820年代前半にかけて、ノーフォークやノルマンディーの建築遺構を主題に優れたエッチング集を発行しました。整然と抑制された上品な構成と詩的な解釈を組み合わせた表現から、「ロマン主義的な古典主義者」と称されました。

『ジョン・セル・コットマンのエッチング集』より	1811年	エッチング/ポートフォリオ
タイトルページ		リヴォース修道院, ヨーク
H.C. イングルフィールド卿への献辞		イェール川の土手に建つガーデンハウス
リヴォース修道院, ヨーク		イズビー修道院, ヨークシャー
バイランド修道院の西面, ヨークシャー		クロイランド修道院, リンカンシャー

『ノーフォーク州のノルマン様式とゴシック様式の建築遺構集』より		エッチング/ポートフォリオ
アーミングホルの北口		(ブルーフ)
マンダム教会の南口		ヴォルスオーカン教会のスクリーン (内陣仕切り)
ヴァステッド教会北口		アクレ教会のスクリーン
イースト・ディアラム教会の南側ポーチ		フィンチャム教会のサクソン式礼拝盤
セント・ポール教会のスクリーン		グレート・シュノーイング教会の石造ストール (聖職者席) と手洗い盤
ノース・クリーク教会の北アイル (側廊) のスクリーン		ライジング城教会の洗礼盤の立面図

『ノーフォーク建築遺構のエッチング集』より	1818年	エッチング/ポートフォリオ
ウォルジンガム大聖堂の門		ビナム小修道院の南正面
ウォルジンガム大聖堂の洗礼盤		パーシャム・ハウスの東部
ウォルジンガム大聖堂の食堂の一部		パーシャム・ハウスの東部
ビナム小修道院の西正面		

主教官邸の門, ノリッジ		エッチング
カーンの聖トリニティー大寺院, クリプト		エッチング
エイカー城小修道院		エッチング

展示室 4 涼のガラス



佐藤潤四郎
《クリスタル六角鉢》

夏の暑さを凌ぐために、ガラスの器を使って目で涼を楽しむ…昔ながらの知恵のひとつです。飲み物や果物、野菜などもガラスの器を使うことで涼しげに感じられます。

今回はガラスの作品によって、そんな涼感を楽しんでいただきたいと思います。当館の工芸コレクションの主要作家である佐藤潤四郎 (1907～1988) とクリストファー・ドレッサー (1834～1904)。時代も国も異なるふたりの工芸デザイナーの作品から、ガラスの作品をご紹介します。どんな使い方をするか、何を入れるか等、想像しながらご覧ください。ガラスの涼感とともに、作品をより身近に感じてお楽しみいただけることでしょう。

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
佐藤潤四郎	ステンドグラス・窯		ガラス、鉄	小林東洋氏寄贈
佐藤潤四郎	オブジェ・魚拓	1972(昭和47)頃	ガラス/宙吹	
佐藤潤四郎	オブジェ・魚拓	1972(昭和47)頃	ガラス/宙吹・カレット封入	
佐藤潤四郎	魚(オレンジ)	1973-6(昭和48-51)頃	ガラス/宙吹・カレット封入	
佐藤潤四郎	魚(ブルー)	1973-6(昭和48-51)頃	ガラス/宙吹・カレット封入	
佐藤潤四郎	花器		ガラス/宙吹・雲母封入	
佐藤潤四郎	花器	1986(昭和61)	ガラス、鉄/鍛鉄吹込	
佐藤潤四郎	クリスタル六角鉢		ガラス/宙吹	
佐藤潤四郎	オリンピックブルー硝子皿	1941(昭和16)頃	ガラス/宙吹	石井謙治氏寄贈
佐藤潤四郎	花器	1986(昭和61)	ガラス/宙吹	
佐藤潤四郎	ボウル(グリーン)		ガラス/宙吹	大方竜子氏寄贈
佐藤潤四郎	皿(グリーン)		ガラス/宙吹	大方竜子氏寄贈
佐藤潤四郎	灰皿		ガラス/型押し	
佐藤潤四郎	ブルー花器		ガラス/宙吹	
佐藤潤四郎	花器・穴があいてちょっと考えた	1980-82(昭和55-57)頃	ガラス/宙吹・カット	
佐藤潤四郎	ルーマー杯・大好きな形		ガラス/宙吹・ブランツ	
佐藤潤四郎	フンペングラス	1975(昭和50)頃	ガラス/宙吹	小林東洋氏寄贈
佐藤潤四郎	タンブラー(5点)		ガラス/型吹ほか	佐藤久枝氏寄贈
佐藤潤四郎デザイン/ カガミクリスタル制作	『スーパーニッカ』手吹きボトル	1962(昭和37)頃	ガラス/宙吹	川崎清氏寄贈
クリストファー・ドレッサー	プロペラ瓶(緑色クルーサ・ガラス)		ガラス	製作:ジェイムズ・クーバー&サンズ社
クリストファー・ドレッサー	花瓶(緑色クルーサ・ガラス)		ガラス	製作:ジェイムズ・クーバー&サンズ社
クリストファー・ドレッサー	瓶(淡緑色クルーサ・ガラス)		ガラス	製作:ジェイムズ・クーバー&サンズ社
クリストファー・ドレッサー	花瓶(赤色クルーサ・ガラス)		ガラス	製作:ジェイムズ・クーバー&サンズ社
クリストファー・ドレッサー	花瓶(緑色クルーサ・ガラス)		ガラス	製作:ジェイムズ・クーバー&サンズ社
クリストファー・ドレッサー	ローマン瓶(緑色クルーサ・ガラス)		ガラス	製作:ジェイムズ・クーバー&サンズ社
クリストファー・ドレッサー	瓶(緑色クルーサ・ガラス)		ガラス	製作:ジェイムズ・クーバー&サンズ社
クリストファー・ドレッサー	瓶(茶色クルーサ・ガラス)		ガラス	製作:ジェイムズ・クーバー&サンズ社
クリストファー・ドレッサー	クラレットジャグ(ぶどう酒用容器)		ガラス、金属、電気メッキ	製作:ヒューキン&ヒース社
クリストファー・ドレッサー	クラレットジャグ(ぶどう酒用容器)		ガラス、金属、電気メッキ	製作:ヒューキン&ヒース社
クリストファー・ドレッサー	クラレットジャグ、黒檀把手(ぶどう酒用容器)		ガラス、金属、電気メッキ、黒檀把手	製作:ヒューキン&ヒース社

ロビー展示 彫刻・他

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
●1階				
細川宗英	装飾古墳シリーズ9	1963(昭和38)	セメント	細川明子氏寄贈
笠置季男	躍進	1958(昭和33)	セメント	
アントニー・ゴームリー	量子雲 XXIII	2000	ステンレス・スチール棒	
アントニー・ゴームリー	領域 XIII	2000	ステンレス・スチール棒	
●2階展示ロビー				
清水多嘉示	フランスの女	1926(昭和元)	ブロンズ	
柳原義達	女の首	1958(昭和33)	ブロンズ	
アリスティード・マイヨール	もの思い	1930	ブロンズ	大高善二郎氏寄贈
北村四海	井冰鹿の娘	1917(大正6)	大理石	
佐藤潤四郎	陶器で仏足跡1		陶器	大方竜子氏寄贈
佐藤潤四郎	陶器で仏足跡2		陶器	大方竜子氏寄贈
佐藤潤四郎	石で仏足跡		石	大方竜子氏寄贈
●前庭				
バリー・フラナガン	野兎と鐘	1988	ブロンズ	